

201410008B

厚生労働科学研究費補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

母子保健に関する国際的動向及び 情報発信に関する研究

平成24～平成26年度 **総合研究報告書**

研究代表者 森 臨太郎

平成27(2015)年3月

厚生労働科学研究費補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

母子保健に関する国際的動向及び 情報発信に関する研究

平成24～平成26年度 総合研究報告書

研究代表者 森 臨太郎

平成27(2015)年3月

目 次

I. 研究班構成	1
II. 総合研究報告	3
母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究	
森 臨太郎 (国立成育医療研究センター研究所 政策科学研究部長)	
III. 平成 24 年度分担研究報告	11
I. 総括研究報告書	
母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究 11	
森 臨太郎	
(添付資料)	
アンケート用紙 (第 1 回コクラン妊娠出産グループプロトコルワークショップ)	
アンケート用紙 (第 2 回コクラン妊娠出産グループプロトコルワークショップ)	
アンケート結果シート	
Letter from Australasian Cochrane Center	
Japanese Satellite of the Cochrane Pregnancy and Childbirth Group	
Letter from United States Cochrane Center	
Letter from The UK Cochrane Centre	
系統的レビューマニュアル初級編	
第 2 回日本疫学会 疫学サマーセミナー チラシ、アンケート結果	
出生体重と生活習慣病等成人期以降の健康との関係について	
II. 分担報告書	
1. ネットワークメタアナリシス	
Comparative Effectiveness Research のための次世代メタアナリシス	83
古川 壽亮	
(添付資料)	
COMAD: COMprehensive Meta-Analysis for Depression [PROTOCOL]	
MAP-P: Meta-Analyses of Psychotherapies for Panic disorder [PROTOCOL]	
2. 妊産婦の保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究	113
水上 尚典	

3. 国際蘇生法連絡委員会 (International Liaison Committee on Resuscitation: ILCOR) ---	117
ガイドライン策定におけるコクランレビュー活用の検討	
田村 正徳	
4. 人材育成および助産ケアに関する科学的根拠-----	123
堀内 成子	
(添付資料)	
コクラン塾 講義スライド 1～6	
第27回日本助産学会学術集会シンポジウム抄録	
コクラン・システマティック レビュー ドラフト第1稿 (表紙)	
コクラン・システマティック レビューのタイトル登録申請書 (表紙)	
5. 次世代成育に資する社会科学的根拠に関する研究 -----	163
津富 宏	
6. 周産期におけるネットワークメタアナリシスの適用事例に関する研究-----	165
米本 直裕	
7. 人口動態統計からみた我が国における周産期医療の質 -----	169
森 臨太郎	
(添付資料)	
在胎週数別 算出表	
III. 平成24年度研究成果の刊行に関する一覧表 -----	179
IV. 平成24年度研究成果の刊行物・別刷 -----	183
IV. 平成25年度総括分担研究報告-----	247
I. 総括研究報告	
母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究 -----	247
森 臨太郎	
(添付資料)	
緊急帝王切開に伴う母体へのリスクと、施術に合併する出血リスクについて	
Japan Branch proposal	
Support letters	
II. 分担研究報告	

1. ネットワークメタアナリシスの批判的吟味 -----	275
古川 壽亮	
2. 妊産婦の保健を対象とした系統的レビューに携わる人材発掘の調整と育成 -----	287
大槻 克文	
3. 小児保健に関する科学的根拠 -----	291
田村 正徳	
4. 国際蘇生法連絡委員会(International Liaison Committee on Resuscitation: ILCOR) -----	295
におけるガイドライン策定におけるコクランレビューの活用を検討	
田村 正徳	
5. 人材育成および助産ケアに関する科学的根拠 -----	297
堀内 成子	
(添付資料)	
聖路加コクラン塾 講義スライド	
【分娩後出血に対する予防介入効果】 システマティック・レビュー採用 (表紙)	
【分娩第3期における出血に対するホメオパシーの効果】 タイトル登録申請書 (表紙)	
第28回日本助産学会学術集会 (長崎) 2014年3月開催予定	
6. 次世代育成のための社会科学分野における科学的根拠 -----	311
原田 隆之	
7. 非ランダム化研究に対する系統的レビューの方法論の近年の動向に関する研究 -----	315
米本 直裕	
8. 人材育成および日本コクランブランチ設立にむけて -----	319
大田 えりか	
(添付資料)	
コクラン妊娠出産グループ日本支部設立記念シンポジウムスライド	
アンケート用紙 (第2回コクラン妊娠出産グループプロトコルワークショップ)	
アンケート結果シート	
アンケート用紙 (第3回コクラン妊娠出産グループフルレビューワークショップ)	
アンケート結果シート	
9. 我が国の政府統計からみた早産と低出生体重予防法の模索 -----	349
森 臨太郎	
(添付資料)	
日本人の妊娠中体重増加と出生体重及び早産率の関係	

Tackling the decrease in GA

日本全出生の低出生体重児および早産増加の要因分析

III. 平成 25 年度研究成果の刊行に関する一覧表	383
IV. 平成 25 年度研究成果の刊行物・別刷	387
V. 平成 26 年度総括分担研究報告.....	415
I. 総括研究報告	
母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究	415
森 臨太郎	
(添付資料)	
自閉症や発達障害の子どもとアレルギー等の関連について	
What is Cochrane	
コクラン日本支部WEBサイト 画像	
COMETワークショップ11月5日開催 案内	
メタ・アナリシス入門講座 12月5日開催 案内	
はじめてのコクランレビューの読み方・使い方 2月24日開催 案内	
セミナーでの写真	
II. 分担研究報告	
1. ネットワークメタアナリシスの応用と批判的吟味ガイドライン.....	463
古川 壽亮	
(添付資料)	
Meta-analysis Waiting list may be a nocebo condition in psychotherapy	
trials: a contribution from network meta-analysis	
Specificity of CBT for Depression: A Contribution from Multiple	
Treatments Meta-analyses	
Comparative efficacy and tolerability of pharmacological treatments in	
the maintenance treatment of bipolar disorder: a systematic review and	
network meta-analysis	
2. 妊産婦の保健を対象とした系統的レビューに携わる人材発掘の調整と育成	505
大槻 克文	
3. 国際蘇生法連絡委員会(International Liaison Committee on Resuscitation: ILCOR)	
ガイドライン策定におけるコクランレビュー活用の検討.....	511
田村 正徳	
4. 人材育成および助産ケアに関する科学的根拠	515
堀内 成子	
(添付資料)	
聖路加コクラン塾 パンフレット	
聖路加コクラン塾 講義スライド コクランレビューのためのGRADEシステムについて	
聖路加コクラン塾 講義スライド メタアナリシスの方法について	
5. 次世代育成のための社会科学分野における科学的根拠	533

原田 隆之

6. 日本コクランブランチ設立と人材育成537

大田 えりか

(参考資料)

プレスリリース

アンケートWEBフォーム (タイトルレジストレーションセミナー)

アンケート結果シート

アンケートWEBフォーム (プロトコールワークショップ)

アンケート結果シート

アンケートWEBフォーム (フルレビューワークショップ)

アンケート結果シート

III. 平成26年度研究成果の刊行に関する一覧表555

I 章

研究班構成

I 章 研究班構成

研究代表者	森 臨太郎	国立成育医療研究センター研究所 政策科学研究部長
分担研究者	古川 壽亮	京都大学大学院医学研究科 教授
	水上 尚典	北海道大学大学院医学研究科 教授
	大槻 克文	昭和大学江東豊洲病院 准教授
	田村 正徳	埼玉医科大学総合医療センター、小児科 教授
	堀内 成子	聖路加国際大学看護学部 教授
	津富 宏	静岡県立大学国際関係学部 教授
	原田 隆之	目白大学人間学部心理カウンセリング学科 准教授
	米本 直裕	国立精神・神経医療研究センター・トランスレーショナルメディカルセンター 室長
	大田 えりか	国立成育医療研究センター研究所 政策開発研究室長
研究協力者	本屋敷 美奈	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
	篠原 清美	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
	今井 必生	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
	田近 亜蘭	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
	Alessandro Pompili	イタリア・ペロナ大学
	Rachel Churchill	英国・ブリストル大学

Deborah Caldwell	英国・ブリストル大学
Georgia Salanti	ギリシャ・イオアニア大学
杉浦 崇浩	静岡済生会総合病院 新生児科科長
松田 祐典	国立成育医療研究センター研究所 政策科学研究部
照井 克生	埼玉医科大学総合医療センター 参加麻酔科 准教授 診療科長
加藤 稲子	埼玉医科大学総合医療センター 小児科・新生児科 教授
八重 ゆかり	聖路加国際大学看護学部 准教授
片岡 弥恵子	聖路加国際大学看護学部 准教授
江藤 宏美	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
森崎 菜穂	国立成育医療研究センター研究所 ライフコース疫学研究室長
野間 久史	国立成育医療研究センター研究所 政策科学研究部
エマ・バーバラ	国立成育医療研究センター研究所 英文エディター
シヤルク・サデクア	国立成育医療研究センター研究所 研究員
佐々木 八十子	国立成育医療研究センター研究所 研究員
ガソチメグ・トゴバクラ	国立成育医療研究センター研究所 研究員

II 章

総合研究報告

母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究

研究代表者 森 臨太郎 国立成育医療研究センター研究所 政策科学研究部長

研究要旨

根拠に基づく母子保健を実現するために、母子保健分野に関する科学的根拠について、国内外の情報を網羅的かつ系統的に収集し、定期的に国内外に情報発信する体制を整備することが必要であり、本研究はこのような体制整備を通して、我が国における根拠に基づく母子保健を推進し、かつ世界の母子保健に貢献することを目的としている。

所管課と連携し、平成 24 年度は、母子保健行政上重要課題と考えられる出生体重と生活習慣病等成人期以降の健康との関係についての最新の知見をまとめ、平成 26 年度は、自閉症や発達障害の子供とアレルギー等の関連についての系統的レビューを行い、政策に寄与した。

平成 24 年度は、コクラン系統的レビューが 3 本、プロトコールが 4 本出版され、平成 25 年度は、コクラン系統的レビュー 6 本、プロトコール 6 本、平成 26 年度は、コクラン系統的レビューが 8 本、プロトコールが 9 本出版された。海外関連機関の支援のもと 3 年間で 36 本の母子保健関連系統的レビューを現在まで出版し、我が国が独立して根拠に基づく母子保健政策・医療を実現するには、人材の強化を通じた基盤整備の必要性を明らかにしてきた。また、コクランの日本からの著者数は 50 名から 200 名を超えるまでになった。平成 24-26 年度で、コクラン系統的レビューの著者数およびコクラン系統的レビューの出版が増加し、日本コクランブランチの活動により、本研究班の基盤整備への成果は着実に示された。

研究分担者：

古川 壽亮（京都大学大学院医学研究科
臨床疫学・認知行動療法・精神薬理学）

大槻 克文（昭和大学江東豊洲病院 産婦
人科学）

田村 正徳（埼玉医科大学総合医療センタ
ー 小児科）

堀内 成子（聖路加国際大学看護学部 母
性看護・助産学）

原田 隆之（目白大学人間学部 臨床心理
学）

大田 えりか（国立成育医療研究センタ
ー研究所 成育社会医学部）

A. 研究目的

根拠に基づく母子保健を実現するために、母子保健分野に関する科学的根拠について、国内外の情報を網羅的かつ系統的に収集し、定期的に国内外に情報発信する体制を整備することが必要であり、本研究はこのような体制整備を通して、我が国における根拠に基づく母子保健を推進し、かつ世界の母子保健に貢献することを目的としている。

B. 研究方法

①所管課や国内外の関連機関と協議し、母子保健の現重要課題に関して、医療系データベース等を網羅的検索し、検索された研究を系統的に批判的吟味し、結果

抽出したうえで統計的に統合(メタ解析)、すなわちコクラン共同計画の方法論に沿った系統的レビューを施行・出版し、広く国内外に発信して情報共有を行う。②国内外関連機関と連携して、プロトコル作成、批判的吟味、メタ解析、結果解釈などの方法論に関するワークショップ及び、学会や教育現場における意識啓発・教育・情報提供を定期的に開催し、同時に、我が国で系統的レビューを行っている著者や研究者へ方法論や発信手法などに関するきめ細かい支援も行うことで、人材強化を行う。③我が国の出生届・死亡届等政府統計の分析および小児死因分析調査を加えることで情報を多角的に強化する。④日本の母子保健における臨床研究を世界に発信するための検討を行う。⑤国内外の機関との関係を強化し、新たに連携できる人材や組織の発掘や育成を行う。

(倫理面への配慮)

系統的レビュー(メタ解析)は、一般的に公開されている研究情報をもとに行う二次データ分析として位置づけられているため、倫理的な問題は少ないが、疫学研究の倫理指針および、コクラン共同計画の国際倫理指針など、国内外の社会的研究に関するガイドラインを順守した。倫理的課題が大きい、ヒトゲノム研究、ヒト幹細胞を用いる研究、遺伝子治療研究、動物事件は行っていない。

C. 研究結果

ネットワークメタアナリシスの応用と批判的吟味ガイドライン(古川壽亮)

本分担任のこれまでの経験に基づき、臨床家がネットワークメタアナリシスを臨床で利用するための批判的吟味のガイドラインを作成した。このガイドライン

は、メタアナリシスのユーザーズガイドにならない、2部に分かれる。

第1部は、系統的レビューの過程の方法論的妥当性に関するチェックポイントで、通常のペアワイズ・メタアナリシスと同様である。第2部は、得られた結果の質、つまり得られた結果の確実性に関するチェックポイントで、GRADEをネットワークメタアナリシスに適用したものである。ひとつの臨床疑問に関して複数の治療を比較するネットワークメタアナリシスは今後、臨床判断にますます重要となってくるであろう。今回われわれはさらに進んで、ネットワークメタアナリシスを理論的研究に応用する研究を行った。また、ネットワークメタアナリシスを臨床家が適切に利用できるためのガイドラインを作成した。

妊産婦の保健を対象とした系統的レビューに携わる人材発掘の調整と育成(大槻克文)

コクランレビューワークショップに出席し、本研究への理解を深めるとともに、参加者とのコミュニケーションを介して、周産期領域、特に産科領域からのサポートを行うこととした。平成27年4月に横浜で開催される第67回日本産科婦人科学会(学術集会会長:峰岸敬教授(群馬大学))事務局に対して、日本におけるコクラン共同研究の主旨を説明し、当該学術集会内での「コクランレビューに関する説明会の開催」開催許可を依頼した。また、本邦で開催される周産期領域、産婦人科領域での学会や研究会主催者に働きかけ、「周産期領域での学会等における「コクランレビューに関する説明会の開催」を試みた。周産期領域での各種学会や医局において、「日本におけるコクラン共同計画の認知度」を高めるべく、啓発活動を実施した。産科領域での人材

発掘と育成に関しては、今一度今後の方策を緻密に考える必要があることが明らかであった。

国際蘇生法連絡委員会(International Liaison Committee on Resuscitation: ILCOR) ガイドライン策定におけるコクランレビュー活用の検討 (田村正徳、杉浦崇浩)

ILCOR ワークシートの1例作成にあたり、網羅的文献検索、1次・2次スクリーニングを実施し、最終的に12文献を採用した。ここで既存のコクランレビューの採用文献と比較したところ、コクランレビューでは16文献を採用しており、うち11文献は一致していた。今回我々の採用文献に含まれなかった5文献の内、臍帯ミルキングの文献はPICOの観点から除外されて妥当と考えられた。またコクランレビューで採用されていた文献に代わり、その後アップデートされた論文が採用されており、採用文献として内容的には一致していることが確認できた。その他の4論文はILCORのPICOのOutcomeにそぐわず除外されていたことが確認できた。その後コクランには含まれていない非ランダム化試験3文献を採用し、各論文につきGRADEシステムに従いコクランレビューと照らし合わせながらアウトカム毎に基づいたGRADE bias table およびGRADE finding table を作成し、2014年12月7日のアメリカ合衆国、ワシントンD.CでのILCOR新生児部門会議にて発表した。会議参加者よりその作成過程でのコクランレビューの有用性が認められ、多くの賛同が得られた。

人材育成および助産ケアに関する科学的根拠 (堀内成子、八重ゆかり、片岡弥恵子、江藤宏美)

コクラン活動に関連するセミナー、シンポジウム開催およびコクラン・システマティック・レビュー作成を通して、看護・助産分野におけるコクラン・コラボレーション活動に関する知識の普及と人材育成を行った。

平成24年度は、基礎セミナーを2回開催し98名の参加者を得た。平成25年度は、基礎セミナーおよび第27回に本所産学会学術集会プレングレスおよびシンポジウムを開催した。平成26年度は、コクラン・システマティック・レビューワー育成を目指した聖路加コクラン塾でセミナーを2回、第28回日本助産学会学術集会(長崎)において、プレングレス・セミナーを開催した。

レビュー作成の進捗状況は、平成25年度に【分娩後出血に対する予防介入効果】が出版された。また、【分娩第3期における出血に対するホメオパシーの効果】に関するコクラン・システマティック・レビューのタイトル登録申請を行った結果アクセプトされ、プロトコール査読結果を受け取り、現在修正中である。

また、「日本助産学会 エビデンスに基づく助産ガイドライン：分娩期2012」の改訂作業を進めている。同時に、「ガイドライン-妊娠期」の作成準備が始まっている。妊婦健診では、助産師健診も増加しており、さまざまな妊婦の疑問に回答できるよう、適切な情報提供ができるようなガイドラインの作成を目指している。日本産婦人科学会のガイドラインの横に助産学会ガイドラインがならび、多様なCQに対するエビデンスの紹介ができるよう作業を進めている。

次世代育成のための社会科学分野における科学的根拠 (原田隆之)

「Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS)

use disorders」(アンフェタミン・タイプ刺激剤使用障害に対する認知行動療法)というタイトルで、コクラン薬物・アルコールグループにタイトル登録、プロトコルの執筆を行った。タイトル登録は、平成25年2月に完了し、プロトコルは同年5月に提出した。さらに、キャンベル共同計画への同時登録の許可も双方から得た。

プロトコルについては、同年10月にコクラン・ライブラリーにおいて公表された。今後は、プロトコルにしたがってレビュー本体の執筆を行う。

キャンベル共同計画の翻訳については、既に英語で発表されている教育、刑事司法、社会福祉分野等のレビュー本体、および抄録の翻訳を実施した。また、既存のウェブサイトの見直しと整備を行った。

さらに、社会科学分野におけるエビデンス・ベーストの重要性について広く啓蒙するための学会発表や論文執筆を行った。

人材育成および日本コクランブランチ設立にむけて(大田えりか、エマ・バーバラ、シャルク・サデクア、佐々木八十子)

母子保健分野に関する科学的根拠を定期的に国内外に情報発信する基盤整備のため、コクラン共同計画の啓蒙活動の実施、およびコクラン系統的レビュー出版を通じた人材育成、を目的とした。

平成24年度には、コクラン妊娠出産グループのサテライトを設立し、本年度は、コクラン日本支部を設立し、プレスリリースを行った。5月にコクランのCEOであるマークウィルソンが来日し、厚生労働省にて記者会見を行った。また、成育医療研究センターにてコクランのワークショップを3回(タイトルレジストレーション6月、プロトコル9月、フ

ルレビュー2月)実施した。また国立精神神経センターと、国立がんセンターと国立成育医療研究センターと3ナショナルセンター合同で、昨年度に引き続き12月に第二回メタアナリシス入門講座を実施した。成育医療研究センターのセミナー、東京大学大学院、東京医科歯科大学大学院、大分県立看護大学にて系統的レビュー作成およびコクラン共同計画に関する講義を行いワークショップ等を含め、延べ300名以上が参加した。また助産学雑誌に、日本語でコクラン系統的レビューの解説特集の連載を1年間行い、啓蒙活動を行った。日本からのコクラン共同計画の著者数は、2015年2月でおよそ200名となり順調に増加している。日本からのコクラン Archie 登録者数は300名となった。コクランの系統的レビューの出版数もフルレビューとプロトコルを含めて3年間で36本となった。

所管課と連携し、平成24年度は、母子保健行政上重要課題と考えられる出生体重と生活習慣病等成人期以降の健康との関係についての最新の知見をまとめ、平成26年度は、自閉症や発達障害の子供とアレルギー等の関連についての系統的レビューを行い、政策に寄与した。

国際共同研究としては、WHOの妊娠期の感染症のガイドライン作成のためのコクランレビューを7月から3か月イギリスの妊娠出産グループに行き、関連する20本 update しすべて出版された。

D. 考察

本年度は、コクラン日本支部のプレスリリースをはじめとして、ワークショップ、講演、講義などでコクラン共同計画の認知度を高め、系統的レビューの方法論を多くの参加者に伝えることができた。ワークショップの開催も、コクラン系統的レビューの著者が増加し、チューター

や講師として参加し協力を得ることができている。また、2月には、成育医療研究センターにてコクランレビューの読み方・使い方のセミナーを開催した。6月には、韓国にて日・中・韓・豪合同のレビューコンプリーション・ワークショップ開催を予定している。

コクラン系統的レビューは、著者の増加に伴い、順調に出版数を増加させている。平成 24-26 年度は、研究班全体で系統的レビューとフルレビューが 36 本出版された。母子保健の医療や政策上の重要課題に関して、最新の科学的根拠を質の高い手法でまとめ発信できた。本研究班のこの基盤整備への成果は着実に示されている。

E. 自己評価

1) 達成度について

3年間で、コクラン妊娠出産グループのサテライトおよびコクラン日本支部を開始することができ、系統的レビューを実施する体制整備を行うことができた。それにより、コクラン系統的レビューの著者や出版数が増加し、我が国における根拠に基づく母子保健を推進するとともに、日本から世界の母子保健に貢献することができた。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

国際的にも注目されているネットワークメタアナリシスの手法や、GRADE のガイドライン評価法、母子保健のサプリメントの研究など、国際的にも重要な研究を推進することができ、論文としても発表し、研究成果の学術的意義は大きい。また、政策上必要な系統的レビューも、母子保健課からの要請で実施することができ、科学的根拠を提供し寄与することができた。

3) 今後の展望について

現在行っているワークショップを関西でも実施し、定期的にワークショップが受けられるように人材育成を推進していく。また国際的には、アジア地区で協力してワークショップを実施し、サポート体制を作っていく予定である。それにより、交流が深まり国際共同研究などが実施しやすい体制ができる。引き続き、根拠に基づく母子保健を推進していく。

F. 結論

3年間で、本研究費の支援のおかげで、コクラン妊娠出産グループのサテライトおよびコクラン日本支部ができた。それにより、36本のコクラン系統的レビューが出版され、日本からのコクラン系統的レビューの著者は200名以上に増加した。また、所管課と連携して母子保健行政上重要課題の系統的レビューを実施し、政策にも寄与することができた。本研究班のこの基盤整備への成果は着実に示された。

謝辞

コクラン共同計画の本部、コクラン妊娠出産グループ、世界保健機関、日本医療機能評価機構、EBM-Tokyo、ワークショップの参加者、関連研究者に協力を感謝する。

E. 引用文献・出典

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Shahrook S, Mori R, Ochirbat T, Gomi H. Strategies of testing for syphilis during pregnancy (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2013, Issue 2.

- Art. No.: CD010385. DOI:
10.1002/14651858.CD010385.
2. Balogun OO, Hirayama F, Wariki WMV, Koyanagi A, Mori R. Interventions for improving outcomes for pregnant women who have experienced genital cutting. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 2. Art. No.: CD009872. DOI:
10.1002/14651858.CD009872.pub2.
 3. Kawaguchi A, Isayama T, Mori R, Minami H, Yang Y, Tamura M. Hydralazine in infants with persistent hypoxemic respiratory failure. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 2. Art. No.: CD009449. DOI:
10.1002/14651858.CD009449.pub2.
 4. Sasaki H, Yonemoto N, Hanada N, Mori R. Methods for administering subcutaneous heparin during pregnancy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 3. Art. No.: CD009136. DOI:
10.1002/14651858.CD009136.pub2.
 5. Tsuruta H, Karim D, Sawada T, Mori R. Trained medical interpreters in a face-to-face clinical setting for patients with low proficiency in the local language (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 3. Art. No.: CD010421. DOI:
10.1002/14651858.CD010421.
 6. Wariki WMV, Nomura S, Ota E, Mori R, Shibuya K. Interventions for reduction of stigma in people with HIV/AIDS (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 6. Art. No.:
CD006735. DOI:
10.1002/14651858.CD006735.pub2.
 7. Abe SK, Balogun OO, Ota E, Mori R. Supplementation with multimicronutrients (excluding vitamin A) for breastfeeding women for improving outcomes for the mother and baby (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 7. Art. No.: CD010647. DOI:
10.1002/14651858.CD010647.
 8. Kenyon S, Tokumasu H, Dowswell T, Pledge D, Mori R. High-dose versus low-dose oxytocin for augmentation of delayed labour. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 7. Art. No.: CD007201. DOI:
10.1002/14651858.CD007201.pub3.
 9. Yonemoto N, Dowswell T, Nagai S, Mori R. Schedules for home visits in the early postpartum period. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 7. Art. No.: CD009326. DOI:
10.1002/14651858.CD009326.pub2.
 10. Nishi D, Shirakawa MN, Ota E, Hanada N, Mori R. Hypnosis for induction of labour (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 11. Art. No.: CD010852. DOI:
10.1002/14651858.CD010852.
 11. Yaju Y, Kataoka Y, Eto H, Horiuchi S, Mori R. Prophylactic interventions after delivery of placenta for reducing bleeding during the postnatal period. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 11. Art. No.:

- CD009328. DOI:
10.1002/14651858.CD009328.pub2.
12. Shahrook S, Hanada N, Sawada K, Ota E, Mori R. Vitamin K supplementation during pregnancy for improving outcomes (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 1. Art. No.: CD010920. DOI: 10.1002/14651858.CD010920.
 13. Mackeen AD, Packard RE, Ota E, Speer L. Antibiotic regimens for postpartum endometritis. Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 2. Art. No.: CD001067. DOI: 10.1002/14651858.CD001067.pub3.
 14. Hanada N, Matsuzaki M, Ota E, Mori R. Psychosocial and educational interventions in latent phase or early labour for improving birth outcomes (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 2. Art. No.: CD011516. DOI: 10.1002/14651858.CD011516.
 15. Ota E, Mori R, Middleton P, Tobe-Gai R, Mahomed K, Miyazaki C, Bhutta ZA. Zinc supplementation for improving pregnancy and infant outcome. Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 2. Art. No.: CD000230. DOI: 10.1002/14651858.CD000230.pub5.
 16. Michihata N, Yamamoto KH, Mukaigawara M, Miyairi I, Mori R. Group B streptococcus immunisation during pregnancy for improving outcomes (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 1. Art. No.: CD011496. DOI: 10.1002/14651858.CD011496.
 17. Thinkhamrop J, Hofmeyr GJ, Adetoro O, Lumbiganon P, Ota E. Antibiotic prophylaxis during the second and third trimester to reduce adverse pregnancy outcomes and morbidity. Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 1. Art. No.: CD002250. DOI: 10.1002/14651858.CD002250.pub2.
 18. Mackeen AD, Packard RE, Ota E, Berghella V, Baxter JK. Timing of intravenous prophylactic antibiotics for preventing postpartum infectious morbidity in women undergoing cesarean delivery. Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 12. Art. No.: CD009516. DOI: 10.1002/14651858.CD009516.pub2.
 19. Shahrook S, Mori R, Ochirbat T, Gomi H. Strategies of testing for syphilis during pregnancy. Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 10. Art. No.: CD010385. DOI: 10.1002/14651858.CD010385.pub2.
 20. Moriichi A, Tomita N, Sado M, Ota E, Mori R. Interventions for insomnia during pregnancy (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 10. Art. No.: CD011355. DOI: 10.1002/14651858.CD011355.
 21. Mazda Y, Ota E, Mori R, Terui K. Drugs for general anaesthesia for caesarean section (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 10. Art. No.:

- CD011348. DOI:
10.1002/14651858.CD011348.
22. Haruna M, Matsuzaki M, Ota E, Shiraishi M, Hanada N, Mori R. Guided imagery for treating hypertension in pregnancy (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 10. Art. No.: CD011337. DOI: 10.1002/14651858.CD011337.
23. Hadiati DR, Hakimi M, Nurdiati DS, Ota E. Skin preparation for preventing infection following caesarean section. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 9. Art. No.: CD007462. DOI: 10.1002/14651858.CD007462.pub3.
24. Harada T, Tsutomi H, Mori R, Wilson DB. Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS) use disorders. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 9. Published Online: 7 OCT 2014, DOI: 10.1002/14651858.CD011315
25. Wariki WMV, Goto Y, Ota E, Mori R. Cyclo-oxygenase (COX) inhibitors for threatened miscarriage. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014 Issue 9. Published Online: 18 SEP 2014, DOI: 10.1002/14651858.CD011310
26. Nishi D, Shirakawa MN, Ota E, Hanada N, Mori R. Hypnosis for induction of labour. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 8. Art. No.: CD010852. DOI: 10.1002/14651858.CD010852.pub2.
27. Moreno R, Nababan HY, Ota E, Wariki WMV, Ezoe S, Gilmour S, Shibuya K. Structural and community-level interventions for increasing condom use to prevent the transmission of HIV and other sexually transmitted infections. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 7. Art. No.: CD003363. DOI: 10.1002/14651858.CD003363.pub3.
28. Futamura M, Ferguson L, Vakirlis E, Kojima R, Roberts A, Mori R. Leukotriene receptor antagonists for atopic eczema (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 7. Art. No.: CD011224. DOI: 10.1002/14651858.CD011224.
29. Sawada, K., Ota, E., Shahrook, S., & Mori, R. Financial incentive policies at workplace cafeterias for preventing obesity--a systematic review and meta-analysis. *Systematic Reviews*, 2014.3(1), 128.
- G. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得 なし
 2. 実用新案登録 なし
 3. その他 なし

Ⅲ章

平成 24 年度分担研究報告